

IoT 分野で SL 社の RTView が FUJITSU Software 連携パートナープログラムに登録

複数の現場から FUJITSU Software Enterprise Postgres に集約されたさまざまな IoT データをリアルタイムに可視化して監視する連携ソリューション



2017年4月14日 プレス・リリースより

リアルタイム・データのグラフィックな可視化と監視で業界をリードする SL ジャパンは、同社の RTView 製品が、富士通株式会社（以下：富士通）の FUJITSU Software 連携パートナープログラム (<http://www.fujitsu.com/jp/products/software/resources/partner-solutions/solution/s16096/>) に登録されたことを発表しました。



今回登録された連携ソリューションは、複数の現場から FUJITSU Software Enterprise Postgres に集約されたリアルタイムな異種 IoT データを、RTView の JDBC 対応の SQL データ・アダプタで接続し、グラフィックに可視化して監視するダッシュボードを極めて短時間でカスタム構築できるものです。

世界でトップクラスのデータベース技術を誇る富士通の Enterprise Postgres との連携によって、複数の工場やビル、データセンター、事業所から集約されるさまざまな IoT データをリアルタイムに可視化して監視でき、富士通による最高水準の性能ならびにサポート体制によって、安心して長年使用できるソリューションを実現します。

☆プレス・リリース全文はこちら：

http://www.sl-j.co.jp/newsevents/pressrelease/2017/sl_j_press_170414.shtml

☆本連携ソリューションのデモビデオ(2分07秒)は、下記のサイトでご覧いただけます：

http://www.sl-j.co.jp/solutions/solution_fujitsusoftware_IoT.shtml

RTView による「DCIM (データセンター・インフラ管理) + サービス状況の監視」

RTView によってサービスを運用している IT システム(サーバ、ストレージ、ネットワークなど)のインフラ監視に、それを支えているラックや電源、空調設備といった「物理インフラ」からの監視データを、さらにはサービスの状況と気象・電力需給状況などサービスに影響する情報を、複合的に可視化できます。

複数データセンターからの性能データが、既存の運用管理システムやデータベースなどのモジュールによって集約される場合、JDBC 対応の SQL データ・アダプタで接続した RTView が一元可視化します。

このような適用では、クラウドでシンクライアント運用されている RTView のディスプレイ・サーバに、フィールドからマネジメントまでが役割割別のダッシュボード画面で、社内専用のタブレットやスマートフォンからアクセスします。

どのような性能データやシステムにも接続できる RTView では、データセンターにおける物理インフラと IT インフラを監視することでデータセンター全体の運用効率(性能)と可用性の最大化を図る DCIM (データセンター・インフラ管理) と、さらにデータセンターが提供しているビジネス・サービスの状況までを統合的に可視化することができます。



☆「DCIM (データセンター・インフラ管理) + サービス状況」デモビデオ(1分03秒)：

http://www.sl-j.co.jp/demovideo/ertv/DCIM_demo_video3/DCIM_demo_video3.html

監視制御システムのコンテンツリッチで高対話性ながらもコンパクトで高速な GUI/HMI と専用エディタの開発ツールである SL-GMS の最新バージョンで、昨年10月にマイクロソフトよりリリースされた Windows Server 2016 を正式にサポート追加(今年3月)しました:



- [Microsoft .NET] 64 bit 版 SL-GMS Developer for .NET, Custom Editor for .NET V4.6a (メディアは Windows 10, Visual Studio 2015 と同じになります。)
- [C++] 64 bit 版 SL-GMS C++/Developer, C++/Map, C++/Net, Custom Editor V6.7a (メディアは Windows 10, Visual Studio 2015 と同じになります。)
- [Java] SL-GMS J/Developer, J/Net V4.4a (メディアは Windows 10 と同じになります。)

☆SL-GMS 製品について: http://www.sl-j.co.jp/products/devtools/sl-gms_devtools.shtml

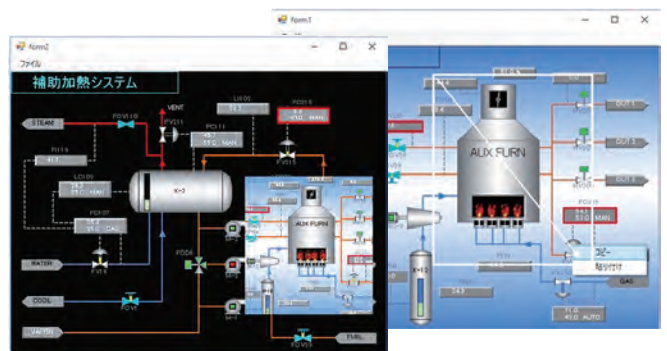
SL-GMS による動的画面の切り貼り機能の実装【新デモビデオ】

SL-GMS Developer for .NET による動的画面の切り貼り機能の実装について、4種類の構築技法をデモビデオでご紹介しています:

その1は SL-GMS のビューワ・コントロールで表示している動的画面の任意の領域を運用(実行)中に対話的に選択して切り貼りする技法で、その2は SL-GMS のビューワ・コントロールを自動的に配置(タイリング)する技法です。貼り付けた領域をパンして全域を閲覧したり、ズーム・パン操作もできます。また、定義ファイル(プレーンテキスト)に保存した動的画面のビューワ・コントロール情報から動的画面を再配置することも可能です。

その3は、SL-GMS で運用(実行)中に表示している動的画面で任意のダイナミック・オブジェクトをコピーして、同じまたは別の動的画面に貼り付けます。ダイナミック・オブジェクトのプロパティとデータは継承されるようにアプリケーション・プログラム側で作成し、ダイナミック・オブジェクトそれぞれの情報は定義ファイルに保存します。

その4は、SL-GMS Custom Editor for .NET のエディタ・コントロールを使って、SL-GMS で表示している動的画面からコピーして別の動的画面に貼り付けた任意のダイナミック・オブジェクトのプロパティ(サイズ、オブジェクト名、変数名など)を実行中に変更(編集)できる技法です。変更(編集)した内容はモデル・ファイルに直接保存されます。



☆「動的画面の切り貼り機能の構築技法 その1~その4」デモビデオ(4分09秒)

<http://www.sl-j.co.jp/demovideo/dotnet/CopyPasteViewerAll/CopyPasteViewerAll.html>

ユーザ様にも好評の「SL-GMS 構築技法 세미나」を今年も新しい技法追加で開催!

SL-GMS による、比類なく高速な監視制御システムとその専用カスタム・エディタ「構築技法セミナー」開催のご案内

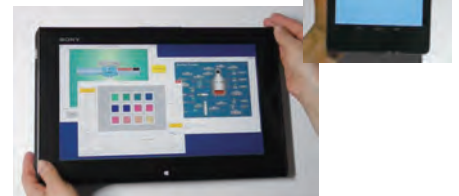
2017年6月9日(金) 15:00-17:00
@TEPIA(東京・青山) [無料・事前登録制]

☆SL-GMS ユーザ様にも参考にしていただける、さまざまな構築技法のデモと事例による具体的な解説:

http://www.sl-j.co.jp/newsevents/seminar/seminar_dotnet.shtml

- SL-GMS Draw エディタ(.NET, Java, C++ 共通)で、動的属性を持ったグラフィカル・モデルをアプリケーションから独立して対話的に作成し、即座にその動的振る舞いをプレビューして確認
- .NET Framework における Visual Studio 2015 (Windows 10) を使った Windows フォーム・アプリケーションの開発
- Web/リモート運用選択肢、モバイルへの画面イメージ配信
- 監視画面にテロップ表示、動的画面の切り貼り機能の実装【NEW】
- 画面イメージを生成する API を使った SL-GMS 表示画面のドキュメント化【NEW】、プレイバック機能の実装【NEW】
- オーバービュー(小窓でパン)、プリンキング機能の実装
- 背景地図、動的な複数レイヤ構成を使った監視画面
- CAD DXF ファイルのモデル化、カスタム描画コマンドの実装
- システム更改などにおける OS やフレームワーク間移植と 64 bit 化 など

リモートデスクトップ機能を使い、スマートフォン(Android, iPhone)や iPad でシンクライアント運用するデモを実際にご覧いただけます。【NEW】



Real-Time Visibility

年3回発行 2017年5月26日発行 通巻57号



株式会社 SL ジャパン

〒107-0062 東京都港区南青山3-8-5 アーバンプレム南青山 3階
Tel. 03-3423-6051 info@sl-j.co.jp www.sl-j.co.jp

◆記載される会社名・製品名は、各社の商標または登録商標です。
◆記載内容は予告なく変更されることがありますので、ご了承ください。
◆記載事項の一部または全部の無断転載を禁じます。